



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかにずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



「わたしについて来なさい。あなた
方を人を漁る漁師にしよう」

マタイ 4 : 19

言葉の重み

三年前、東京教区神学生の
合宿に養成担当として同行し
た折、長野の善光寺に立ち
寄ったことがあります（「何
故、寺!?」とお思いでしょ
うが、経緯については御免下
さい）。平日だったからか、さ
ほど混んでおらず、有名な
「御戒壇巡り」もシッカリ体
験し、「極楽の錠前」に触れ
て来ました。錠前に触れた者
には極楽浄土が約束されるそ
うですが、さて如何に。

主任司祭 林 正人

ところで、この善光寺境内
最奥部に「迷子郵便供養塔」
なる物があるのをご存知で
しょうか（と、したり顔で書
くものの、私も訪れた際は完
全にノーマーク。後に本で
知った次第です）。配達も返
送もできない、文字通り「迷
子」になった郵便物を吊うた
めに造られた塔で、その内部
には、焼却処分されてしまっ
た迷子郵便の「遺灰」が収め
られているそうです。「郵便

物にも魂が宿っている」。ア
ミニズム（汎霊説）の一形態
と言えはそれまでですが、手
紙に詰まった差出人の情意を
疎かにしない、これは肝要で
はないでしょうか。

手紙と言えは、私も此の頃
は手紙を書くことが減法少な
くなり、大抵の通信は電子
メールに頼っています。手紙
を書くこと自体が嫌いな訳で
は決してありません。むしろ、
大好きなのです。手紙とい
うのは、便箋や切手の選定
等、「書く」という作業以外
にも、様々な準備が必要であ
り、封緘を終えた時には、殆
ど一つの『作品』を創作り
上げた、そんな気持ちにな
りませんか？ つまり手紙は、
便箋に記された文字だけでは
なく、手紙という「物体その
もの」が、思いを語る通信手
段になっていると思うのです
（そう言えは、江戸川乱歩の
短編に、「切手を斜めに貼る
と、それは恋心を表す」とい
うことが書いてありました。
然ればこそ、私は手紙一通の
作製に半日近くかけてしまう
ことも度々あり、時間的余裕
があれば、これほど楽しい時
はないものの、流石に最近
は、メール通信可能なもので手
紙で出そうとは考えなくなっ
てしまいました。

自分もその恩恵に浴している
者として決して言えませんが、
やはり比較してしまくと、手
紙という形式で文字にされた
言葉には、発した者の思い
が、より重く表れるように感
じるのは：私だけですかねえ。
「メールやLINEにだつ
て、ちゃんと心を籠めとるわ
い！」とお叱りを受けそうで
すが、それでも、昨今スマホ
で簡単に「死ねよ、バカ」等
と送信する世相を見るにつけ
「手紙で、このようなことが
起こるだろうか？」と考えて
しまうのです。

電子メールであろうと、更に
口から出た声であろうと、私
たちは「言葉」というもの
に、どれ程の「思い」を載せて
いるでしょうか。そして、その
言葉の「重さ」を、どれ程意
識しているでしょうか。何よ
りも、神のことば、福音を伝
える使命を持つ私たち。発し
た「言葉」が神の「ことば」
を顕示するものとなり、周り
の人々を生かし、「ことば」
自体をも生かすものとなりま
すように。

「福音は、神の心を種とし
て、よろづの言の葉とぞなれ
りける」
多くの外国籍の方に分かる
ように、教会の運営と組織の
英文冊子も作成中です。また
9月から、教会に馴染みのな
い方や未信者向けに、気楽に
「キリスト教を覗いてみよ
う」というタイトルで月1回
シスター吉村のご協力で、堅
苦しくないお話を聞ける講座
ができました。
子供が小学生の時にオアシ
ス運動というのがありました。
「おはよう、有難う、失礼し
ます、すみません」の頭文字
です。先ず挨拶は幸せを呼ぶ
コミュニケーションで、顔も
知らない信徒同士はもちろん、

教会でもオアシス運動

古藪 光子

ましてや初めて教会に来られ、不安や孤立感を感じている方への声かけは大切と思いが、この言葉をふと思いついたのです。教会の扉はいつも開かれていて、疲れている時、不安な時、心が折れそうな時、また喜びにあふれた時、神様と会話する場所です。「オアシス」の中でも、特に感謝の言葉で話しかければ、神様はいつも平等に愛で包んで下さいます。教会は決して敷居の高い所ではない事を、ぜひ未信者の方々にも分かち合う事ができないか考えています。

運営委員会といえば、教会の駆動力になり活動源に不可欠ですが、教会業務で昨年立ち上げた行事サポートチームの協力で委員の負担が大幅に軽減され、教会のイベントの準備等スムーズに遂行されています。

最後に、運営委員会など他人事だった私のような何もスキルのない主婦でも、何とか2年間楽しく皆様のご協力ですうできた事も、かなり運営委員のハードルを下げたと思っています。どうぞ運営委員にお声がかったら、「喜んで」とお引き受け下さい。また内外に開かれた教会のためにも、一人ひとりオアシス運動をこころみてみませんか。

キリスト教を覗いてみよう!?

生涯養成委員 林 佳香

ちよつと奇妙なネーミングのこの会は、日曜日に入門講座がないことから、運営委員会と生涯養成委員会の合同企画で、この秋から始まりました。汚れなきマリア修道会のシスターセシリア吉村のご指導で、第四日曜12時〜13時30分、信徒ホール会議室1です。

第2回目のテーマは「祈り」でした。シスターの小さい頃からの朝晩正座で捧げる「家族での祈り」、お母様が台所のあちこちにご絵を貼ってなさっていた「小さい祈り」、必死な思いで続けた「うるさい祈り」、修道生活での「一日の区切りともなる祈り」などなど。そして、毎日の生活の中のひとつひとつの気づきが、すべて神への賛美と感謝の祈りになる。こう考えると、小さい頃から、内面から導かれ、神が片時も離れることなく支えて下さった。とはじめから最後まで、幸せそうな笑顔で語られ、心打たれました。

シスターのお話と重なりますが、最近私もつくづく感じることが、「ずっと招かれて来た」「今も招かれている」「そして「これからも必ず招かれ続ける」ということです。

☆食べる瞑想 (ランチ体験 10分沈黙)

10食べて目を閉じて瞑想

アガペーとして自分の命を差し出している

食べ物(生きもの-命あるものを断つて)

命を殺さない(私)は生きれない

過去を断つて

一食べて箸を置き

神の命にめざめさせるためにきこれた

私がきたのは羊に命を得させるため!

アガペー(神の無償の愛) Agape 人を無条件に受け入れ生かそうとする 差別せず

神のゆたかさ

神のゆたかさ(アガペー) 無償の愛 顕された愛 ありがとう

私たちが体

気づき、少しずつはぐとんといく

呼吸

あながままに

御父の御言葉のよに...

御父に対する信頼

模範者

マリアのとりなし

呼吸→瞑想 具体的に感じる

アガペー

おわりに アペマリアを唱える

神の本性に あずかるために

(ペトロ第二の手紙1:4)

私は真理について 証をするために生まれ その為にこの世に来た 真理に属する人は皆 わたしの声を聞く。

人を裁くな

アガペー 天の父の姿

アガペーの心

自分の体に気づく!

「心を尽くし、精神を尽くし...」 あなたの神である主を愛しなさい... (マタイ. 22. 37-40)

なぜイエスは 生まれたのか?!

受肉の神秘

愛をためにつくす

ふだんより大切に

10回、心をきいて食べる

37兆個の細胞

一つの細胞の部分が共有される

アガペー

自ら私を生かすために おしめしなく差し出されたい

アガペー

1人1人が

目間的

11月25日(日)生涯養成委員会による「待降節黙想会」が行われた。柳田敏洋神父 指導:柳田敏洋神父(イエズス会)ルポ(池永)

ウイハロツサナー-瞑想 (あるがままに 洞察する)

その神の招き、呼びかけに
 えるのは、他でもなく私たち
 ひとりひとりです。毎日の生
 活の中で、ひとりで祈ること
 教会の典礼に与ること、廻り
 の方の中に神の似姿を見つけ
 ること：いつでもどこでも出
 来ますが、素直に出来ない心
 持ちになったり、これでいい
 のかしら？と迷うこともあ
 ります。

でも、同じように神に心を
 向ける教会共同体で、皆で心
 を合わせてともに祈ったり、
 お話することで、そんな自分
 から抜け出すことが出来るか
 もしれません。そして、手前
 味噌になります。そして、手前
 の豊かなお話から、たくさん
 のヒントや力をいただくこと
 が出来ると思います!! シス
 ターのお話は、温かで、真っ
 すぐで力強いですから!

今後の予定ですが、12月
 23日は、信徒による聖堂案
 内、1月27日「祈り②」、2
 月24日は「ミサ①」、3月24
 日「ミサ②」、その後、第
 四日曜（教会行事の日はお休
 み）で続きます。毎回のご参
 加でなくても、ご興味のある
 テーマのご参加でも結構です
 どうぞお気軽に「覗いて」み
 てください。お待ちしております
 ます!!



ウエルカムテーブル

小金井教会巡礼

高橋 由香里

10月27日。夫婦の親が共倒
 れ、実家近くの町田教会に身
 を寄せることになった私達を
 「ウエルカムテーブル」の皆
 さまは温かく迎えてくださ
 いました。

当日の朝は天候にも恵ま
 れ、小金井教会の「ルルドの
 聖母」像の前でロザリオの祈
 りを唱え、案内の方に導かれ
 ホスピスの前を通りました。
 すると、仕事と教会の奉仕を
 両立するも脳腫瘍のため56歳
 の若さで亡くなった友人の事
 が頭をよぎりました。最期の
 2ヶ月間、彼女は聖路加国際
 病院のホスピスでどんな思い
 を持って過ごしたのか。
 「死者の日」を前にして祈
 りながら次の場所へ。



午後は「江戸東京たてもの
 園」をガイド付きで見学しま
 した。忍者屋敷のような高橋
 是清邸、和洋折衷が印象的な
 三井八郎右衛門邸や昔懐かし
 い銭湯、居酒屋などを楽しく
 見学。当時の職人さんたちの
 技術の高さ、工夫に皆感心す
 るばかり。

そんな中、町田教会の建物
 の話になりました。最初の教
 会建設の中心メンバー13人が
 今や3人になってしまったこ
 と（そのうちの2人がこの巡
 礼に参加しているのはすごい
 ですが）、併せて「ウエルカ
 ムテーブル」もただ漫然と行
 事をこなすのではなく、新し

い方を迎えるべくもっと活動
 を考えるべきではないかと、
 そもそも普段から教会でも
 「迎える」姿勢をもっと持つ
 べきではないかという話にな
 りました。

私はいわゆる「団塊ジュニ
 ア」の世代です。少子高齢化
 が変わることはなく、「言い
 たいことも言えない、生きに
 くい」今の時代、仕事でも教
 会でも「中堅」の立場にあた
 ります。一人の町田市民とし
 て、また地元を根を下ろそう
 としているキリスト者として、
 「これからどうやって地域に、
 また教会に携わっていくべき
 なのか」真面目に考えなけれ

特別
 寄稿

コンパニオンプランツ

小平教会主任司祭 小池 亮太

植物を育てる時に、近くに植える良い
 影響を与える植物のことを「コンパニオン
 プランツ」と呼びます。例えば、ある野菜
 に相性の良いハーブを組み合わせると、病
 害虫の発生が抑えられ、成長が促されて収
 穫量が増え、味が濃く香りも強くなる等の
 効果があらわれます。逆に、悪い影響を与
 える組み合わせもあるのですが、いずれに
 しても、どうしてそうなるのか科学的に解
 明されているものは少なく、ほとんどは経
 験的なものだそうです。

植物園に世界中のさまざまな種類の植物
 が植えられているように、教会共同体を構
 成する人たちの生まれ育ち、考え方や信仰
 のセンスもさまざまです。植物園に新しい

植物が植え込まれるように、町田教会共同
 体の中にやってきた私は「コンパニオンプ
 ランツ」のように、素晴らしい実りをもた
 らすために、誰かの信仰の成長を助けたの
 か、逆に、ある人の信仰の成長を妨げ、
 実りを悪くさせたのか、両方だったと思
 いますが、それがどうしてなのか、すべて
 説明することはできないでしょう。自分の
 信仰の成長と実りに良い組み合わせは、出
 会いと経験の中でしか見つかりません。

私を成長させてくれた町田から引き抜か
 れて、小平に移されましたが、私はここで
 誰かの信仰の成長を助ける「コンパニオン
 プランツ」になれるのか、最近、そのよ
 うなことを考えていたのです。



ばいけないと感じました。これから少しずつ手探りではありますが、「主の御心にかなうよう」祈りながら、信仰生活を送ろうと思ったひとときでした。

フランスのクリスマス ヴィリエ愛佳里 (旧姓 三須)

11月も終わりに近づき、もうすぐクリスマス！日本ではクリスマスと言えば、恋人や友人とパーティーをしたり、苺のショートケーキを食べたり、バレンタインやハロウィンのようにあくまで一種の「イベント」として捉えている人が殆どではないでしょうか。フランスではクリスマスは家族と過ごすものとされており、日本人がお正月を家族と過ごす感覚と似ている気がします。

フランス人のクリスマスの過ごし方の一つ目は、クリスマスミサに参加することです。人口の約8割がキリスト教徒であるフランスですが、毎週



教会に設置されたクレッシュ(馬屋)

ミサに参加する人は年々減っているようです。それでもクリスマス、枝の主日、復活祭、諸聖人の祝日はカトリック教徒にとつて大切な日にあたり、その日のミサには今も多くの人が参加します。伝統では深夜0時頃にミサが始まり、イエス・キリストの生誕を祝います。

二つ目はご馳走を食べること。家族と食卓を囲み、クリスマスをお祝いし、食卓を飾ることもフランスのクリスマスには欠かせません。24日の夜または25日昼にこの特別なご馳走を家族で食べます。日本のお正月で食べるおせち料理やお雑煮が各家庭によって異なるように、フランスのクリスマスも各家庭によって料理が異なりますが、メインの七面鳥または鶏の丸焼きに加え、フォアグラ、生ガキ等が食卓に並びます。デザートも様々ですが、伝統的なデザートといえばブッシュドノエルではないでしょうか。これはフランス語で「クリスマスの丸太」を意味し、その名の通り丸太の形をしたケーキです。他に南フランス(プロヴァンス地方)では、イエス・キリストと12人の弟子に因んで、13種類のデザートがあります。13種類のデザートには

ドライフルーツ、ナッツ類、カリソン(プロヴァンス地方名物の砂糖菓子)、ヌガーなどがあります。

フランスのクリスマスの過ごし方、いかがでしたか？日本でお正月を家族と過ごすように、フランスではクリスマスに家族と過ごし、この家族との時間をとても大切にしているように感じます。国や文化が違っても、家族で過ごす行事があるのは同じですね。皆さまも良いクリスマスとお正月をお過ごしください！

長寿感謝のミサ (10月28日)



犠牲献金

中高生会

10月 3,672円
(ペロニカ苑へ)
11月 7,444円
(ペロニカ苑へ)

英語の黙想会

(12月1日)

指導司祭
サンティアゴ・デインド神父



クリスマスと年始のミサ

☆クリスマスのミサ

12月24日(月・祝)	17:00
	19:30
	22:00
12月25日(火)	11:00

イブ(24日)のミサ前にミニコンサートを行います

2019年

☆年始のミサ1月1日(火)

00:00
11:00

信者動静

2018年10月~12月

(個人情報のため、削除しています)